

『地域における骨折予防対策の評価』 に対するご協力のお願い

研究の目的と意義	<p>現在、日本は超高齢社会となっています。骨粗鬆症患者数は1,590万人（男性410万人、女性1,180万人）と推定されています。</p> <p>骨粗鬆症による骨折は、寝たきりや死亡率の上昇につながってしまうため、骨折予防は健康寿命延伸の観点からも重要な課題となっています。しかしながら現在、日本では骨粗鬆症検診受診率はとても低い状態です。特に神奈川県は全国ワースト3位という骨粗鬆症検診受診率の低さとなっています。</p> <p>骨粗鬆症は無症状のまま進行して骨折をした時に診断されることが多い疾患であるため、早期のリスク評価と適切な介入が重要となります。そこで、本研究では、市民講座において、FRAX（骨折リスク評価ツール）とQUS（踵骨骨密度測定）、カルシウム自己チェック表を用いた客観的な骨折リスク評価と参加者無記名アンケートを提供する事で、受講する方自身の骨粗鬆症のリスク認識を高めて行動の変容を促す可能性を検討しています。</p>
研究の方法	<p>骨代謝センターでは毎回、市民講座に参加した市民のFRAX、QUS、カルシウム自己チェック表、講座受講後に実施している無記名アンケートの回答とかわさき整形外科・リウマチクリニックと神奈川県骨粗鬆症メディカルスタッフの会より提供された情報と併せて総合データを作成しています。</p> <p>今回はそのデータから研究に使用する情報を抽出し、統計解析を行います。</p>
対象者	西暦2025年2月1日～2030年1月31日の間に、骨粗鬆症の市民講座に参加した方
利用する試料/情報	情報等：識別コード（各研究対象者に割付けた固有の識別番号）、性別、年齢、身長、体重、合併症、既往歴、骨折既往の有無、QUS検査結果、FRAX結果、カルシウム自己チェック表、無記名アンケート結果。
利用する試料/情報の取得方法	市民講座で受けていただいた QUS検査結果、FRAX結果、カルシウム自己チェック表、回答していただいた無記名アンケート結果から取得します。
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	<p>【研究代表機関】 済生会横浜市東部病院 林 綾野（研究代表者）</p> <p>【既存試料・情報のみの提供を行う機関】 かわさき整形外科・リウマチクリニック 武田 勇樹（提供責任者） 神奈川県骨粗鬆症メディカルスタッフの会 林 綾野（提供責任者）</p>
試料/情報の院外提供	該当なし
結果公表	研究結果は日本リウマチ学会、日本骨粗鬆症学会、臨床リウマチ学会、アジア太平洋骨粗鬆症地域会議で発表予定
研究参加拒否・同意撤回	<p>情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2030年3月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。</p> <p>無記名アンケートは提出された後に同意は撤回できませんのでご了承ください。</p>
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 骨代謝センター/看護師/林 綾野
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000（代表） 済生会横浜市東部病院 骨代謝センター/看護師/林 綾野